

品川シーズンテラス サウスガーデンとノースガーデン

— 水と緑と風のエコロジカル・インフラストラクチャーの創出 —



ノースガーデン (イベント広場) のテラスから北を望む



南側よりノースガーデンを望む / 手前「イベント広場」、奥「風の森」



芝生広場が広がるノースガーデン



東京タワーを望む / 都市のビスタを形成



芝生の築山 (イベント広場) と広場を一望するウッドデッキ「ノーステラス」



湿性花園

水鏡やカスケード状の流れなど変化する「カナル」

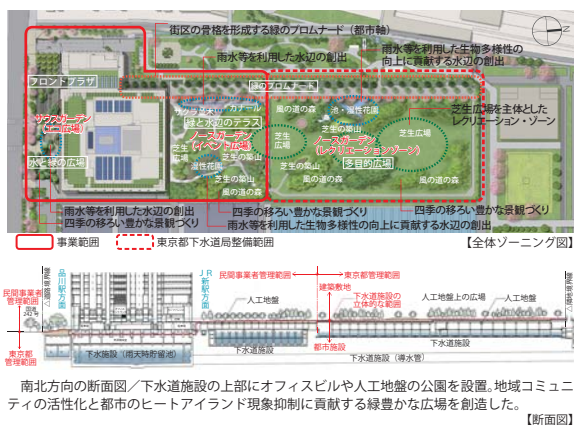


「霧のアート」中谷美三子×インコーポレーション

土木との融合による新しい都市開発の実践

敷地の殆どは「立体都市計画」により下水道施設上に構築された人工地盤である。建物は、上部に民間事業者が管理するオフィスを中心とした複合ビル、免震層を挟んでその下部に東京都が管理する下水道施設を構築した、建築と土木が融合した構成となっている。

敷地南端に建物や公園を配置し、既存港区の公園と連担した人工地盤上の緑地は、東京湾から都心に向かう風の道を確保する広大なオープンスペース「風の森」となる。東京湾からの風をこの緑で冷却し都心に送り、都市のヒートアイランド現象を抑制する。この人工地盤上の緑のパブリック空間は、地域にまたがる住民コミュニティの新たな結節点となり、新駅による将来の人の流れを促す都市のプロムナードを有する。さらに、本センターで再生された水と緑は、東京湾臨海部と武蔵野台地の生態系をつなぐ重要な自然の結節点でもある。地域に豊かな生態系を育み、風を導き、物質を再生し循環させる、都市の新しいかたちの環境社会資本 - 水と緑と風のエコインフラ - である。



南北方向の断面図 / 下水道施設の上部にオフィスビルや人工地盤の公園を設置。地域コミュニティの活性化と都市のヒートアイランド現象抑制に貢献する緑豊かな広場を創出した。

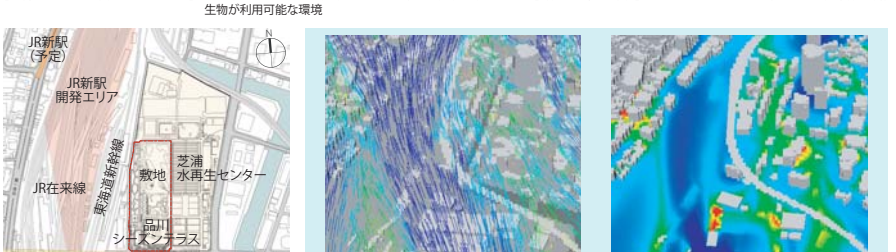
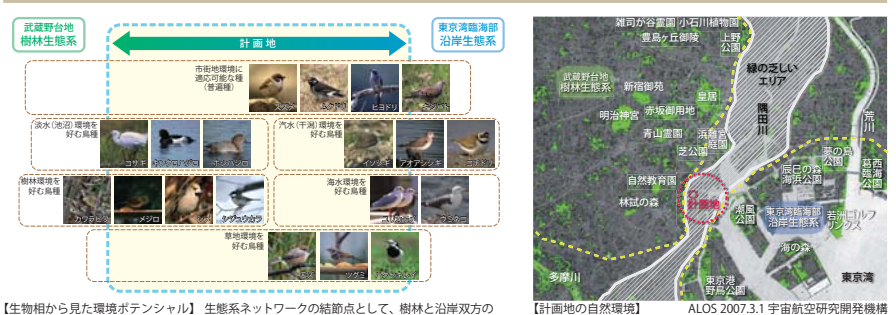
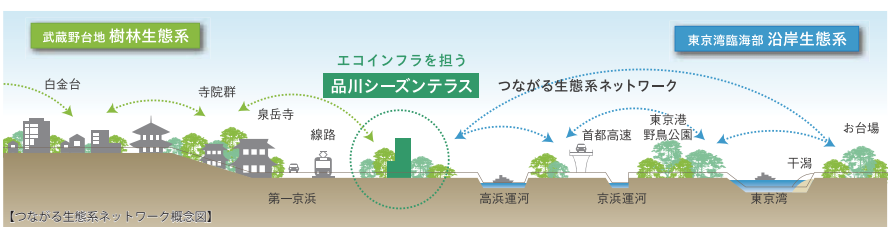


品川シーズンテラス全景

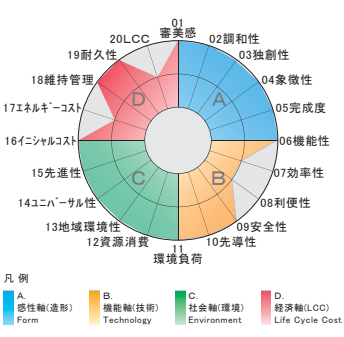
都市環境を充実する新たなアーバン・ランドスケープ

芝浦水再生センターの広大な敷地の一部に立地し、品川-田町、台地-沿岸をつなぐ結節点として、その立地やスケールの可能性を最大限に活かすランドスケープは、様々な人々や環境を受け入れる「オープンエンドな空間」であり、東京では喪失されつつある「大きな空」へとつながり、シンボル性の高い東京タワーへと抜けるような「都市のヒストリー」の形成である。その実現には、大きな芝生空間を創出し、都市的なスケールのプロムナードを導入する。さらに、芝生空間には、東京湾からの南東の風を受け流し都心に導くような形態の樹林群「風の森」を配するとともに、様々な高さの異なるマウンドによる展望スペースを提供しながら水平的に広がりを持つ景観にアクセントをつける。広大な芝生と樹林群は、台地の樹林生態系と臨海部の沿岸生態系の異なる生態系をつなぐ草地型生態系であり、水再生センターからの再生水を活用した湿地を点状させることでさらなる生態系の充実を図っている。建物北側のランドスケープ(イベント広場)は、空に抜けるような芝生と建物低層部のにぎわいが滲み出すデッキや有機的な形態のプラザに、ビル風に配慮した緑のキャノピーを配することで、人々の憩いのスペースを形成している。

一方、サウスガーデン(エコ広場)は、品川駅からのアイストップとなる空間で、歩道上の既存サクラ並木を取り込んで、緑豊かなクールスポットを形成する。夏の暑い時期に給水型のクールウォールや保水性ブロック舗装を製品開発し導入した。さらに段差を利用した階段状のカスケードを配することでクールスポットとしての広場を計画している。



環境・設備デザイン評価表



評価項目	評価項目に対する設計者のデザイン意図 (従来のデザインと比較し、優れている部分、卓越している部分に関して具体的に記述してください)	重要度	達成度	評価
A 持続性 (Sustainability)	01 耐寿命性	☆	おおらかに広がる緑の芝生空間にシームレスな建築と様々な樹林やマウンド、水鏡が豊かな景観を形成	2
	02 調和性	☆	南側国道のサクラの大樹木と西側の芝浦中央公園に対して連続的に配慮し敷地内に取り込む景観デザイン	2
	03 独創性	☆	水再生センターの上部利用という、東京では貴重な空間スケールを生かしながらランドスケープを提供し、人や生物の新たな結節点形成	2
	04 象徴性	☆	東京タワーへのスタスタを模したプロムナードや水鏡に反射するカナルなど都市スケールのシンボリックな視線の抜けを意図した当該地ならではの象徴的なデザイン	2
B 機能性 (Technology)	05 完成度	☆	ノースガーデンは、下水道施設を覆うように作られた人工地盤上の緑地で、商業からの風を導き都心に誘導する風の道であり、広大な草地型生態系を形成する	2
	06 機能性	☆	サウスガーデンは、水のカスケードやクールウォール、クールロードによって都心の快晴なクールスポットを形成し、ノースガーデンの森とともに都市気候の緩和と機能の担い手となる。夏は安全な人工地盤上の緑地を形成するが、地盤や低層が生育する主要な種を確保し、高層に設置した給水型で涼しさを確保。夏場には人工地盤上の緑地を形成するが、地盤や低層が生育する主要な種を確保し、高層に設置した給水型で涼しさを確保。夏場には人工地盤上の緑地を形成するが、地盤や低層が生育する主要な種を確保し、高層に設置した給水型で涼しさを確保。	2
	07 効率性	☆	多様な水鏡を計画しており、空間利用に応じて水のレベルをかえることで、メンテナンスは後から行うことが可能で、目詰まりなどの確認も容易	1
	08 利便性	☆	ノースガーデンは、下水道施設を覆うように作られた人工地盤上の緑地であり、土壌層、排水性能、樹木支持など最新の技術を組み合わせた人工地盤緑地の計画	2
C 社会性 (Social Environment)	09 安全性	☆	環境モデルビルとしての建築の環境性能とともに、海風を都心に送る風の道としてヒートアイランドの抑制	2
	10 先進性	☆	FAS 認証の木材利用や水再生センターからの再生水のビオトープでの利用など資源の有効活用	2
	11 持続性	☆	芝浦の沿岸域と高層部の武蔵野台地の2つの特徴のある環境をつなぐ新しい結節点として、人々をつなぐ生態系ネットワークの結節点形成	2
	12 地域環境性	☆	品川からの地上アクセスから既存の芝浦中央公園や水再生センターの緑地とリアリティーネットワークを形成し、地域に開かれた緑でもがくめる空間を創出	2
D 経済性 (Life Cycle Cost)	13 地域環境性	☆	東京における貴重なオープンスペースを確保しながら、土木的インフラの上部利用として特徴のある空間デザインを実現	2
	14 先進性	☆	人工地盤上に敷きつらぬ土壌は、緑地の計画に合わせた合理的な厚さとし、自然土ベースに排水性と保肥力が高まるように改良することで人工地盤土に対するコスト削減を図る	2
	15 持続性	☆	雨水や再生水の利用を促し上水使用量を抑制する	1
	16 地域環境性	☆	海に近い気候や人工地盤上の土壌に制限があることから、潮風のあたる環境で比較的に強い、地形的、気候的条件に合う樹種を選択し、余計な維持管理を排除	2
17 先進性	☆	クールウォールやクールロードに使用する新開発したシタガハクワの強度確保、ウッドデッキは木材の粉末を混入した樹脂材材を使用した高耐久の材料を使用	2	
18 地域環境性	☆	木や水資源のリサイクル利用、高耐久な素材選択や材料開発、地域や人工地盤環境に適合した樹種選択などライフサイクルコストを極力削減	1	